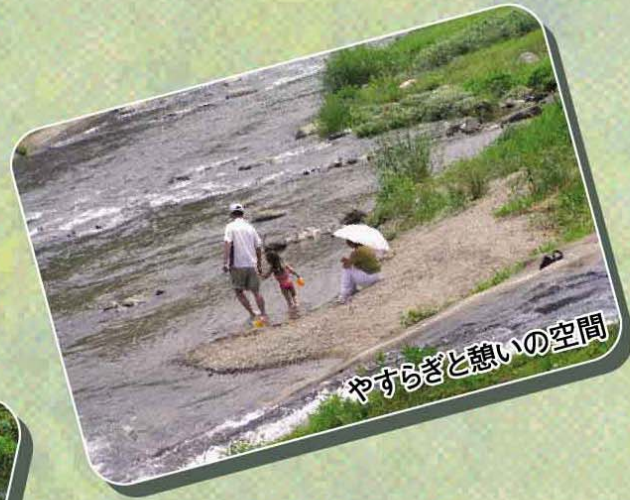
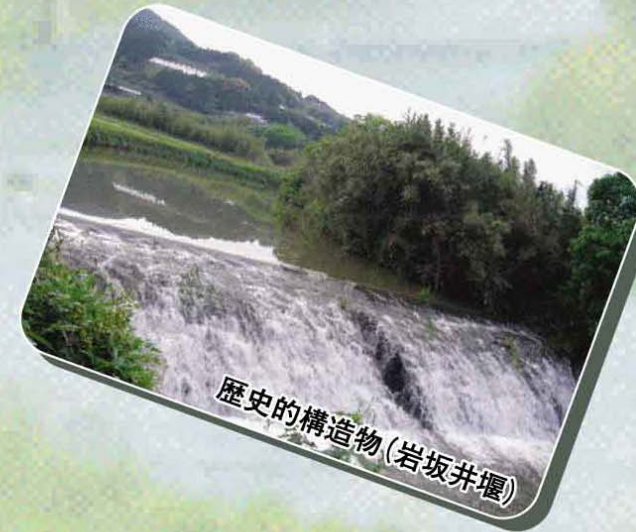




濁流に洗われる家屋(昭和28年6月洪水)



やすらぎと憩いの空間



歴史的構造物(岩坂井堰)



良好な水際環境



子ども達と一緒に水生生物を調査



目ノ高地山から見る松浦川



河口部の水面に映える唐津城



水遊びに夢中の子ども達



厳木川合流点浸水状況(昭和42年7月洪水)



厳木ダム(昭和62年3月完成)

みんなで描こう松浦川の未来!

松浦川水系 河川整備計画(原案)の概要版



氾濫原的湿地の再生(アザメの瀬)

松浦川を管理する
国土交通省 武雄河川事務所からの**大切**なお知らせです。

これから、概ね30年間にわたって松浦川で
どのような川づくりを進めていくのか原案としてまとめました。
これから具体的な計画を皆様に提示し、ご意見をお聞きます。

添付のハガキで、どうぞあなたとご家族の率直なご意見をお聞かせください。



国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所
〒843-0023 佐賀県武雄市武雄町大字昭和745
TEL. 0954-23-5151 FAX. 0954-23-5193
ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>
メールアドレス takeo@qsr.mlit.go.jp

流域の概要 永きに渡り、ふるさとを潤し続ける松浦川

松浦川水系流域図



流域内人口約10万人。佐賀県北西部最大の河川です。

松浦川は、その源を青螺山(標高599m)に発し、北流しながら厳木川を合わせ、さらに下流平野部で徳須恵川を合わせ、唐津市街部を流下し、玄界灘に注いでいる幹川流路延長47km※、流域面積446km²の一級河川です。流域は唐津市・伊万里市・武雄市の3市からなり、流域内人口約10万人の生活・産業を支える佐賀県北西部最大の河川です。

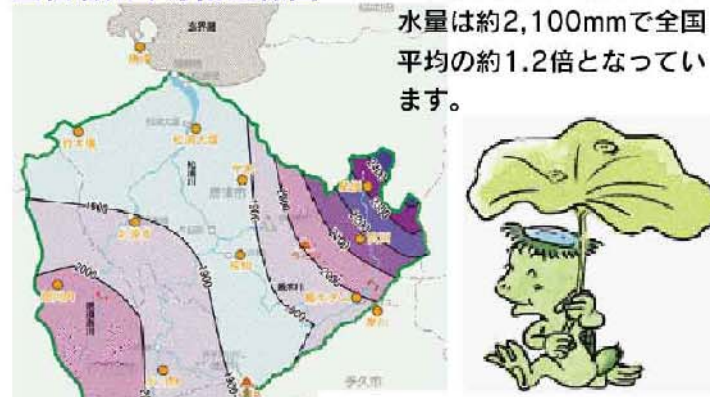
※幹川流路延長とは、松浦川本川筋の源流から河口までの長さです。



降雨は梅雨期にあたる6～7月に集中しています。

■松浦川年等雨量線図

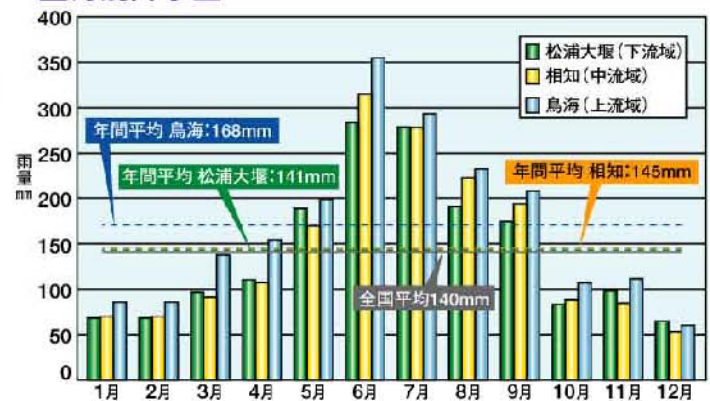
松浦川流域の年間平均降水量は約2,100mmで全国平均の約1.2倍となっています。



■年平均降水量の比較



■月別降水量



松浦川は、脊振山地や丘陵地に囲まれています。

土地利用は、山地・丘陵地等が84%、水田や畑地等の農地が15%、宅地等の市街地がおよそ1%となっています。

■松浦川流域内土地利用



多様な自然に恵まれ貴重な動植物が生息・生育しています。

松浦川流域には、自然公園や天然記念物などがあり、多種多様な動植物が生息・生育する自然の宝庫となっています。また、唐津市佐里地区では、アザメの瀬において氾濫原的湿地の再生に取り組まれています。



豊かな文化と歴史が息づいています。

古くから朝鮮半島、大陸との接触・交流により、文化・技術の伝達が行われたことから、古代より人々が移り住み、豊かな生活とあいまって、時代とともに大きく飛躍的に発展してきました。



さまざまな特産品を生み出しています。

松浦川流域では、温暖な気候を利用した果樹栽培や林業、畜産が盛んです。



現状と課題(治水) 繰り返される洪水との戦い、松浦川は今…。



たびたび洪水を起こし、暮らしを脅かしています。

松浦川での大規模な洪水は梅雨前線によるものが多く、特に昭和28年6月、昭和42年7月および平成2年7月の洪水は、流域全体にわたり大きな被害をもたらしました。



●昭和28年6月洪水の状況(巖木川)
(富津市巖木町 本川合流点より9.8km付近)

●平成2年7月洪水の状況(松浦川)
(伊万里市 河口より2.4km付近)



●平成2年7月洪水の状況(松浦川)
(伊万里市 河口より2.4km付近)

●平成18年9月洪水の状況(徳須恵川)
(伊万里市 本川合流点より11.8km付近)

■主な洪水

洪水発生年月	原因	被害状況
昭和28年6月	梅雨前線	家屋全・半壊流失573戸、床上浸水30,537戸 氾濫面積1,270ha(農地)
昭和42年7月	梅雨前線	家屋全壊流失42戸、床上浸水(半壊含む)1,392戸 床下浸水4,843戸 氾濫面積5,176ha
昭和47年7月	梅雨前線	家屋全壊流失2戸、床上浸水25戸 床下浸水451戸 氾濫面積398ha
昭和51年8月	梅雨前線	床上浸水280戸 床下浸水293戸 氾濫面積757ha
昭和57年7月	梅雨前線	床上浸水131戸 床下浸水261戸 氾濫面積448ha
平成2年7月	梅雨前線	家屋全壊流失3戸、家屋半壊11戸 床上浸水130戸 床下浸水422戸 氾濫面積1,623ha
平成3年6月	梅雨前線	床下浸水29戸 氾濫面積337ha
平成5年8月	低気圧・前線	床上浸水7戸 床下浸水143戸 氾濫面積173ha
平成18年9月	低気圧・前線	床上浸水54戸 床下浸水39戸 氾濫面積111ha (速報値)

■これまでの主な治水対策



●松浦大堰(昭和49年完成) ●巖木ダム(昭和62年完成) ●駒鳴捷水路(平成15年暫定完成)

上流部を中心に、洪水を流す能力の低い箇所が多くあります。

松浦川の改修は着実に実施されてきましたが、松浦川上流部、徳須恵川上流部、巖木川中上流部を中心に、さらに改修の必要な箇所があります。

■松浦川水系堤防整備率



●徳須恵川上流部(H18.9洪水の状況)



●松浦川上流部(堤防がない状況)



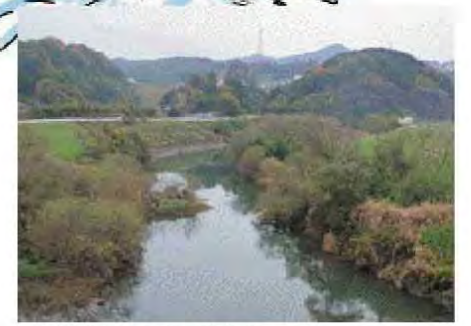
●巖木川中上流部(堤防がない状況)



●徳須恵川上流部(河道が狭い状況)

土砂の堆積や河畔林の過剰な繁茂による洪水流下の障害が懸念されています。

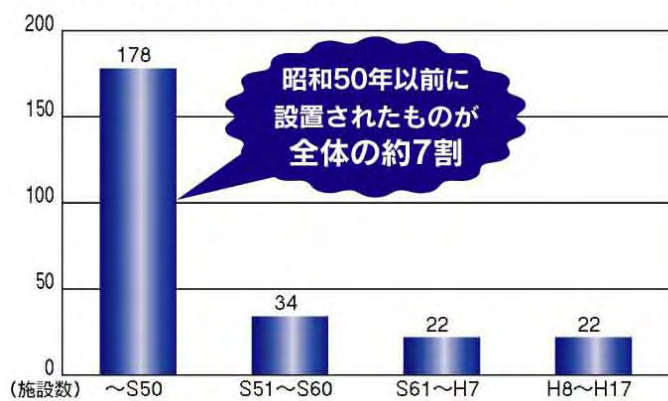
松浦川では、経年的に河床高が上昇・低下するといった顕著な変化は見られませんが、河床高の上昇は砂州を極端に発達させ、植生が著しく繁茂する可能性があります。また、河畔林の過剰な繁茂は、洪水流下の障害になります。



●河道内に繁茂する樹木群(松浦川)

河川構造物の老朽化による機能の低下が懸念されています。

河川構造物の中には昭和50年以前に作られたものが多く、老朽化による機能の低下が懸念されています。



●樋管内部



●老朽化樋管の様子



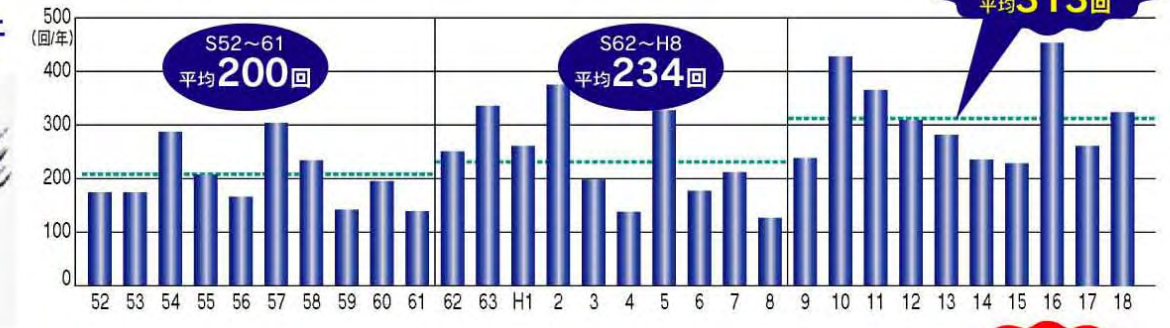
●護岸変形の様子

計画規模を超える洪水の発生を想定した危機管理対策が必要です。

近年、全国各地で計画規模を超える降雨が発生し、平成18年9月の徳須恵川の出水においても時間雨量110mmを記録しており、計画規模を超える洪水の発生を想定する必要があります。今後は社会的状況の変化を踏まえて、自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の再構築が求められます。

近年豪雨が急増!!
H9~H18
平均313回

■時間雨量50mm以上の降雨の発生回数



■時間雨量100mm以上の降雨の発生回数



近年豪雨が急増!!
H9~H18
平均5.1回

現状と課題(利水) 忘れてはいけない!洪水の影に水ききん。

近年の異常気象により渇水の発生が懸念されます。

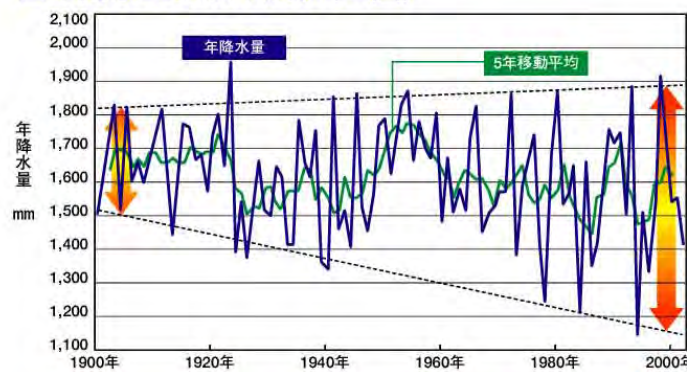
戦後最大の少雨となった平成6年渇水では、厳木ダム等による利水補給を行い、大きな渇水被害には至りませんでした。近年少雨と多雨の変動幅が増大しており、渇水の発生が懸念されます。



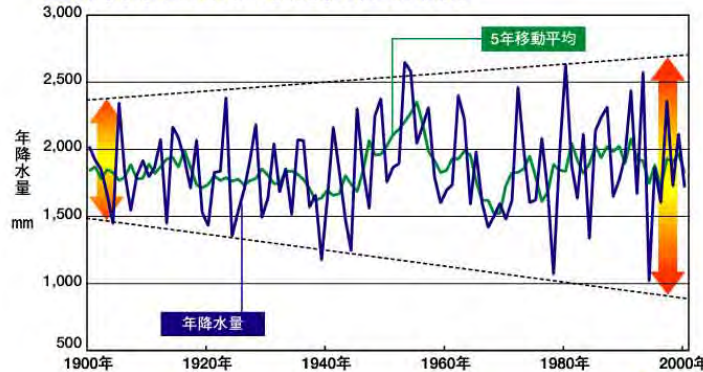
■主な渇水被害

渇水年月	渇水被害の状況
昭和 42年 5月~10月	農業用水不足による水稲被害、給水制限の実施
昭和 43年 3月~6月	伊万里市、多久市で農作物の被害
昭和 44年 8月~9月	佐賀県北西部で干ばつによる被害
昭和 45年 1月	佐賀県全般で干ばつによる被害
昭和 53年 4月~8月	佐賀県北部、西部で小雨、渇水、干ばつ被害
昭和 57年 6月~7月	唐津市において給水制限の実施
昭和 59年 7月~8月	農業用水不足による水稲被害 黒乾(281ha)、白乾(20ha)、枯死(1ha)
平成 6年 6月~8月	農業用水不足による水稲被害 本部ダムから農業用水として3万m ³ 緊急放流

■年降水量の経年変化(全国)



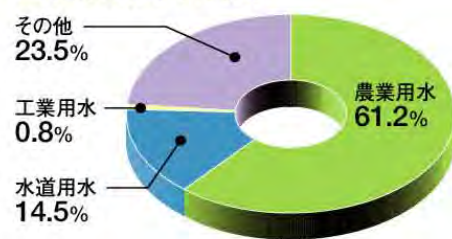
■年降水量の経年変化(佐賀県)



少雨と多雨の変動幅が増大

少雨と多雨の変動幅が増大

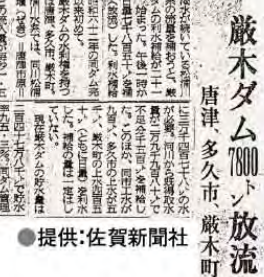
■松浦川の水利用



●平成6年渇水時の状況
水位低下により樋管からの取水が困難となったため、松浦川から取水ポンプにより直接取水する住民



●提供:佐賀新聞社



●提供:佐賀新聞社

●平成6年渇水時の状況
松浦川の様子(桃の川橋上流)



●昭和53年渇水時の状況
(給水タンクから田圃へ給水する住民)
提供:佐賀新聞社

現状と課題(河川環境) 豊かな自然、豊かなふるさとをいつまでも見守りたい

変化に富んだ水辺環境は、多様な生物の生息・生育場所になっています。

松浦川の河川環境は、「汽水域」、「瀬と淵」、「河畔林」、「蛇行河川」により特徴付けられており、多様な動植物の生息・生育基盤となっています。

●汽水域

干潮時には広大な砂質干潟が出現し、ハクセンシオマネキやマゴコロガイ等の希少な生物が生息しています。



●ハクセンシオマネキ



●蛇行河川、瀬と淵

蛇行に富んだ河道で連続する瀬と淵は、多様な生息環境を形成しています。



●オヤニラミ



●イダ(ウグイ)

●河畔林

河岸にはメダケなどの河畔林が発達し、魚食性のカワセミやヤマセミなど鳥類が多く確認されています。



●カジカガエル



●アリアケバチ



●カワセミ



●ヤマセミ

河道改修により川の多様性が消失しています。

松浦川においては、これまでの改修により、河道の直線化や護岸の整備が行われており、川の多様性が消失している箇所が見られます。



●護岸整備による河道の直線化の状況



●固定化されている水際部の状況

魚類等の移動を阻害している堰などが多く存在します。

堰などの河川横断工作物や樋門などの一部は、河川や河川と水路の連続性を分断し、魚類等の移動の妨げになっている箇所があります。



●落差あり

●水面や河床の連続性が確保されていない樋門



●縦断的連続性を分断した固定堰



現状と課題(河川環境) 豊かな自然、豊かなふるさとをいつまでも見守りたい



河口部環境の変化が懸念されています。

市街地の進展に伴う流入河川の水質悪化、砂利採取、河川改修等により、河道形状や河床材料といった物理環境や生態環境の変化が懸念されています。



●カキ礁

カキ礁については、景観や漁業、舟運等に影響を及ぼしているという声がかられる一方、水質を浄化する働きや水産資源の増加に寄与しているという声も聞かれます。



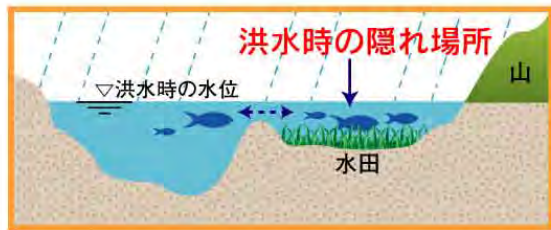
●河口部の状況

氾濫原的湿地が消失しています。

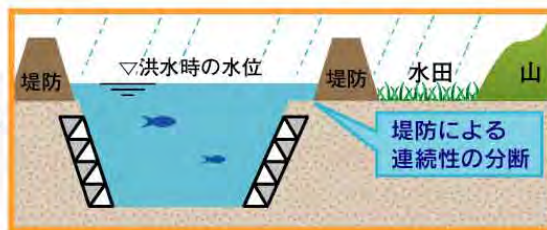
洪水時に川の水があふれてできる湿地(氾濫原的湿地)はかつて松浦川にも多く存在していましたが、水田開発や河川改修に伴う湿地の減少等により、湿地に依存する動植物や人と生物のふれあう機会が少なくなっています。



過去: 川との連続性が保たれていた



現在: 川との連続性が失われた



概ね良好な水質を維持しています。

松浦川の水質は環境基準値を概ね満足しているものの、臨海工業地域の工場進出やそれに伴う都市化等により家庭排水の増加、関連企業からの排水等により排出負荷が増加することも予想されます。

外来種生物が増加しています。

外来種は、在来種を減少させたり、在来種の絶滅の可能性を高めるなどの問題を引き起こす恐れがあります。松浦川においても、外来種が多数確認されています。



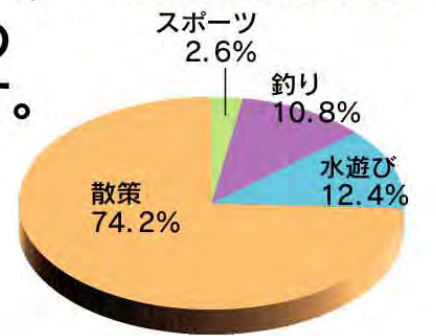
●オオクチバス

●セイタカアワダチソウ

松浦川の豊かな自然や景観を活かした人と川とのふれあいの場のさらなる確保が求められています。

松浦川の利用者は年間約30万人(平成18年度調査)にのぼり、散歩や釣りなど河川の堤防から水面まで全体的に利用されています。また松浦川では、地域の住民団体等による河川愛護の啓発運動など、河川を軸とした様々な活動が展開されており、今後、水辺とのふれあいの場や、河川空間を利用した自然体験、環境学習の場のさらなる確保が求められています。

■松浦川の利用目的



●松浦川上流で水遊びをする子ども達



●アサメの瀬での自然体験



●徳須恵川の水辺の楽校を利用したカヌー教室



●巖木川で釣りを楽しむ人



●巖木川あゆまつり



●巖木ダム湖上流のスポーツ公園

河川に流入、投棄されるゴミが、河川利用や漁業などの支障となっています。

流域に捨てられたゴミは、洪水などによって河川に流入することから、河川利用や漁業、舟運等の支障となっています。また、不法投棄は河川環境を悪化させ、場合によっては、治水上の支障ともなります。

河川景観に調和した整備が求められています。

松浦川には、自然の営みによって形成された瀬・淵・河畔林等の中上流部の河川景観に加え、古くから大陸文化の伝来窓口として栄えた流域の歴史・文化と関わりの深い河口部や井堰を中心とした河川環境と調和の取れた河川整備が求められています。



●松浦川下流のゴミの様子



●不法投棄されたゴミの様子



●萩の尾堰

●自然の営みと歴史的構造物を有する松浦川上流部の河川景観



●町切水車

●町切水車が周辺と溶け込んだ巖木川の景観

松浦川の川づくりの方向性

松浦川水系河川整備計画は、流域住民が安全、安心して暮らせるように、社会基盤の整備発達を図るとともに、自然豊かな河川環境を保全し、古くから大陸文化の伝来窓口として栄えた流域の風土、歴史、文化を踏まえ、流域の個性や活力を実感できる川づくりを目指すため、以下の基本理念にしたがい、取り組みます。

河川整備の基本理念

「歴史と文化の継承 安らぎと緑ゆたかな松浦川」

3つの基軸

治水

松浦川流域住民の貴重な生命財産を守り、安全で安心できる川づくり

平成2年7月洪水を満足する概ね30年に1回の確率で発生する洪水に対して家屋浸水を防ぐとともに、内水対策や施設維持管理に努めます。

利水

松浦川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

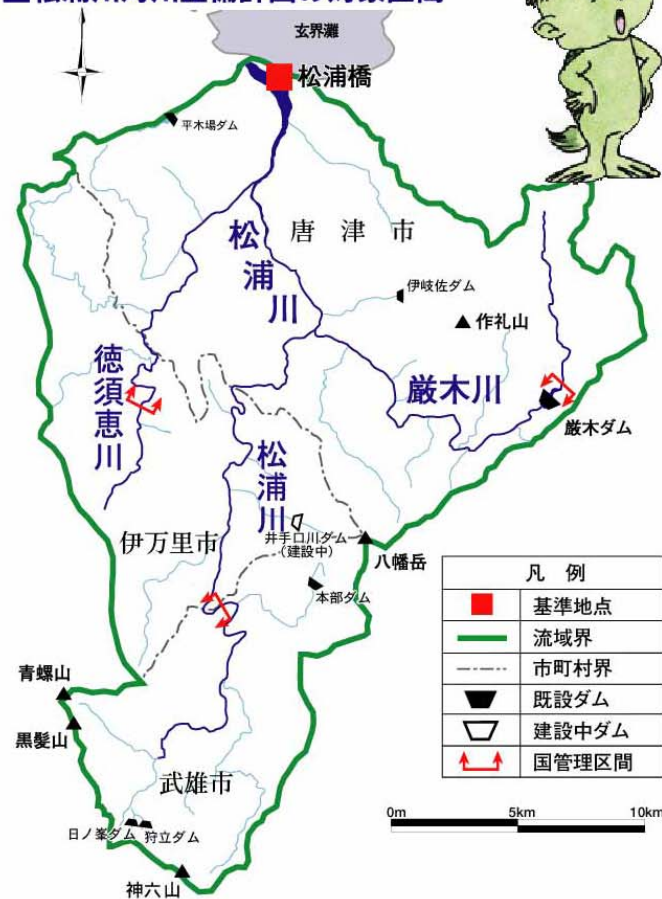
厳木ダム等の適正な管理・運用により、河川環境の保全や水利用に必要な流量の確保に努めます。

環境

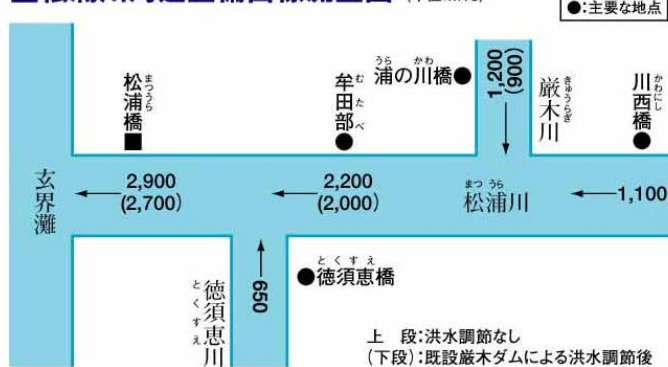
松浦川の自然豊かな環境や歴史文化漂う景観を保全・継承できる川づくり

動植物のための環境保全や泥濘原的湿地の再生に取り組み、利用空間の形成や景観保全に努めます。

松浦川河川整備計画の対象区間



松浦川河道整備目標流量図 (単位:m³/s)



河川名	上流端	下流端	区間延長
松浦川	佐賀県武雄市若木町本部字野々瀬3935番地先の萩の尾井堰	海へ至る	31.4km
徳須恵川	佐賀県伊万里市南波多町高瀬字大前田1291番地の2地先の市道橋	松浦川への合流点	14.5km
厳木川	左岸：佐賀県東松浦郡厳木町大字天川字野の平902番の1地先 右岸：同町大字広瀬字東宇土3番の3地先	松浦川への合流点	17.4km

※官報で告示された時点の地名で表示しており、現在の地名とは異なるものもあります。

治水 目指そう！流域の暮らしはみんなを守る。

松浦川流域住民の貴重な生命・財産を守り、安全で安心できる川づくり

概ね30年に一度起こるような規模の洪水に対して、家屋浸水を防止し、農作物への浸水被害を軽減するために

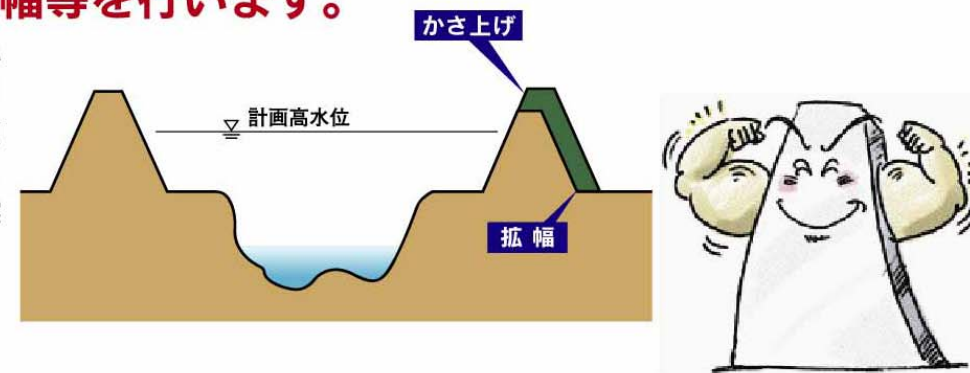
河道掘削や橋梁、堰を改築することにより、洪水を流す能力を向上させ、洪水時の水位を低下させます。

松浦川上流、徳須恵川上流および厳木川中流の河道断面が不足している箇所について、河道掘削、橋梁、堰などの構造物改築を行います。なお、掘削の際は、多様な動植物が生息・生育する河川環境に十分配慮して実施します。



堤防のかさ上げや拡幅等を行います。

堤防が所定の高さを有していない箇所において、整備目標流量に対して家屋浸水の可能性が懸念される区間については、堤防のかさ上げや拡幅、築堤、輪中堤のかさ上げ等の整備を実施します。



歴史的構造物を保全しつつ、治水と環境のバランスの取れた河川整備を行います。

松浦川の地形特性に応じ、家屋浸水を防止することを目標に、歴史的文化遺産として価値の高い大黒井堰、馬ノ頭伏せ越し、萩の尾堰(松浦川)、岩坂井堰(徳須恵川)等を保全した河川整備を行います。



萩の尾堰(松浦川) 1550年完成(推定)

萩の尾堰から引かれた水は、成富兵庫茂安によって作られた馬ノ頭伏せ越しにより、川底を通し、対岸の田畑を潤しています。



馬ノ頭伏せ越し(松浦川) 1611年完成(推定)

江戸初期に成富兵庫茂安により築造され、今もその役割を果たしています。



岩坂井堰(徳須恵川) 江戸時代初期完成(推定)



大黒井堰(松浦川) 1633年完成(推定)

寺沢志摩守の指示で工事が始まり、完成間近に洪水によって流された後、僧侶田代可休の進言により、ようやく完成しました。

治水 目指そう！流域の暮らしはみんなを守る。

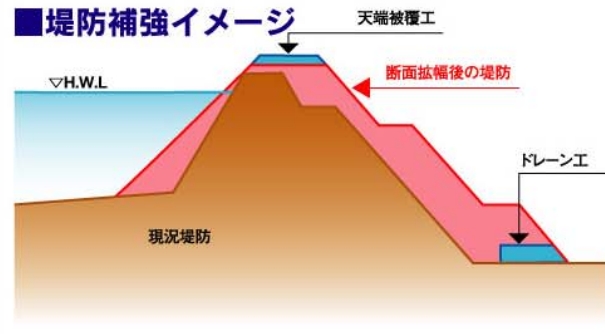
松浦川流域住民の貴重な生命・財産を守り、安全で安心できる川づくり

浸水被害を軽減するために

堤防の安全性の確保 および内水被害への 対応に努めます。

堤防の詳細点検を実施し、堤防強化対策が必要な箇所については、順次実施します。また内水対策については、今後の浸水実績に応じて、関係機関と連携して対応していきます。

堤防補強イメージ



排水機場位置図



災害を未然に防止または軽減するために、 松浦川維持管理計画に基づき、PDCAサイクルにより、 効率的かつ効果的な維持管理を行います。

- 治水上支障が生じないように、必要に応じて土砂等の除去や河道内樹木の伐採等を行います。
- 堤防、護岸、樋門・樋管、水門、排水機場、堰、ダム等の河川管理施設については、洪水に対して所要の機能が発揮されるよう、河川巡視や点検時に施設被害、機能不具合等の確認に努め、計画的な補修、施設の更新・改築等を行い、各施設の機能を良好な状態に維持します。



●河道内樹木



●河川巡視



●堤防除草



●堤防天端不陸の補修前

補修



●堤防天端不陸の補修後

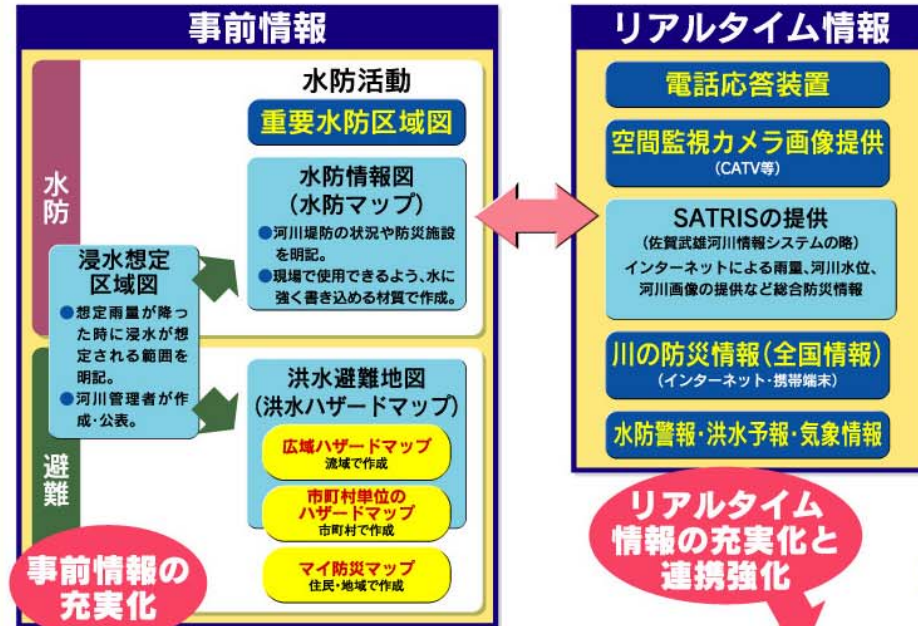
PDCAサイクルによるマネジメント概念図



災害に強い地域づくりのために

危機管理を考えた災害に強いまちづくりを目指します。

災害時に必要な情報をインターネットや携帯電話でリアルタイムに提供することで、被害を最小限に抑えることができるよう、ソフト対策を推進します。また洪水ハザードマップを活用し、危機管理の観点からの普段のまちづくりを地域住民と協働で考えます。



マイ防災マップの作成 (松浦川 伊万里市大川町宿地区)



●水害履歴図記入状況
マイ防災マップとは、洪水ハザードマップを利用して、自分たちのまちを、自分たちで点検しながら作成する地域独自のよりわかりやすい、身近な防災マップです。

●防災まちづくりの手引き (平成18年3月発行)

わかりやすい河川情報を「SATRIS」 がお届けします！

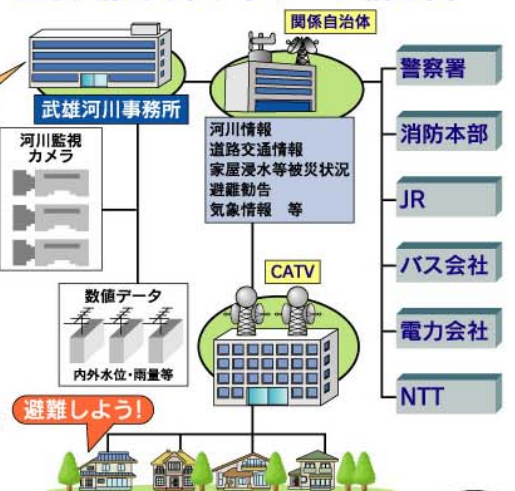


●SATRIS (サトリス)



●川の防災情報

広域防災ネットワーク構想図



利水 話し合おう！困った時こそ助け合い。

松浦川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

適切な水利用や渇水発生時の被害を最小限に抑えるために

各機関と連携して、渇水時の円滑な水利調整を行います。

- 流水の正常な機能の維持等を図るため、厳木ダムから不特定用水を補給するとともに適正な水利用と河川環境の調和を図るため、河川流量の管理及び取水量等の把握をします。
- 渇水等の被害を最小限に抑えるために、情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水利利用者相互間の水融通の円滑化に向けた取り組みを関係機関及び水利利用者等と連携して推進します。
- 渇水時の対策が必要となった場合は、佐賀県及び関係市等と構成する「松浦川水系渇水対策連絡協議会」を開催し、適切な水利用がなされるよう、必要に応じて取水制限及び水源施設の総合運用等の渇水調整を行い渇水被害の軽減に努めます。



●渇水対策連絡協議会



●厳木ダム

河川環境 守り伝えよう！未来に誇れる松浦川を目指して。

利活用 松浦川の自然豊かな環境や歴史文化漂う景観を保全・継承できる川づくり



動植物の生息や生育環境を保全するために

河畔林、瀬・淵、砂礫河原の保全・再生に努めます。改修にあたっては十分な配慮を行います。

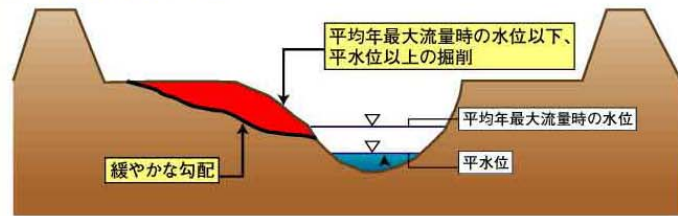
- 多様な動植物の生息・生育基盤となっている河畔林、瀬・淵、砂礫河原の保全・再生に努めます。



●松浦川上流の河畔林

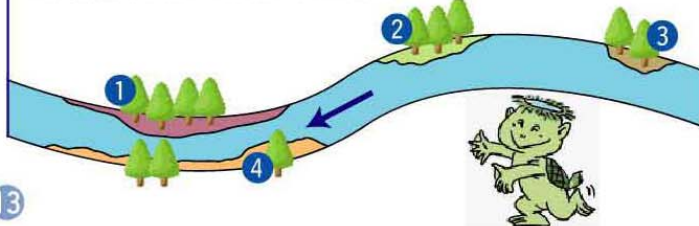
- 河道掘削を行う箇所は、生物の多様な生息・生育環境に配慮するため、平水位以上で緩勾配の掘削を基本とします。また、掘削高を平均年最大流量時の水位以下にすることで、冠水頻度を確保し、植生の繁茂を抑制します。
- 河道掘削時に伴う樹木伐採については、伐採による魚類、鳥類などの生息環境への影響を考慮し、伐採時期などの調整を行います。また、樹木については水害防備林としての機能を有する箇所もあり、必要に応じて再生するなどの適切な措置を講じます。

掘削イメージ



掘削順序イメージ

河道掘削において樹木伐採が伴う箇所については、同時期にすべて掘削を行うと、生物の生息・生育環境に影響を及ぼすことが予想されるため、伐採時期を調整することで急激な変更を緩和させます。



河川の多様性の再生・確保に努めます。

- 河川整備にあたっては、川本来の自然性を保全回復する「多自然川づくり」を継続的に実施し、水域と陸域の連続性に配慮し、水際の多様化を図ります。



●多様性に富んだ中流部(松浦川)



●多自然区間(相知)



●駒鳴旧川部(松浦川)



●旧川部の川づくりイメージ

下流から上流への連続性を確保します。

- 魚類が河川の上下流を自由に移動できるよう、施設管理者と連携し、必要に応じて堰等に魚道を整備します。
- 河道改修により旧川部となった区間について、保全・整備を行います。
- 河川につながる水際等においても、自治体等と連携し、必要に応じて連続性の確保に努めます。



●魚道設置前の固定堰



●魚道設置後の固定堰(蔵木下堰/蔵木川)



●魚道の様子

- 水路の落差改善、排水路と本川との落差の改善やピオトープ池との連続性確保など、エコロジカルネットワークの形成により連続性を確保します。



●排水路と本川の落差改善



●エコロジカルネットワークイメージ

氾濫原的湿地の保全・再生

- 「アザメの瀬自然再生事業」において再生されつつある湿地について、自然環境に応じた管理(順応的な管理)を進めます。また再生が必要と考えられる箇所においては、調査検討を行い、対策を講じます。



●アザメの瀬(松浦川)

河口部の砂質干潟・塩生湿地を保全します。

- 河口部の流れや水質、カキ礁などのモニタリングを継続的に行い、必要に応じて保全策を講じます。貴重な塩生植物群落の生育空間を確保するよう必要に応じて保全策を講じます。



●モニタリング(河口部)

在来種の保全に努めます。

- 良好な河川環境の保全・再生、河川の多様性や河川の連続性の再生・確保を通して、在来種の生息・生育環境の保全に努めます。



●外来種駆除のための釣り大会

アザメの瀬における外来種対策(イメージ)



●塩生植物群落(ハマツツナ)

人と河川との豊かなふれあいを創出するために

人と川のふれあいに関する施策を推進します。

- 水辺や河川敷等へ近づきやすいように必要に応じて親水護岸、坂路等を整備します。また、整備にあたっては、地域との連携、住民の参加、合意形成に向けたプロセス等を通して計画を立案し、実施します。
- 整備を行った箇所については、市民と連携した「川の通信簿」による点検など、継続的なモニタリングを実施し、必要に応じた手直し等を行います。



ダムを活かした水源地域の活性化に取り組みます。

- すでに策定されている「厳木ダム水源地域ビジョン」により、地域住民と行政が連携しながら、活性化のための活動を行っていきます。



●川づくりイメージ

川に親しむ取り組みを支援します。

- 川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習、川の指導者育成などを積極的に支援します。



●河口干潟の生物調査(松浦川)



●アザメの瀬・棚田での田植えの様子(松浦川)



●水辺の楽校を利用したカヌー教室(徳須恵川)

良好な景観の維持・形成のために

歴史と文化を継承した川づくりを行います。

- 流域の特性、土地利用、地域の歴史・文化等と調和した河川景観の保全に努めます。
- 流域内には建造当時の姿を残す井堰が存在し、これらの歴史と文化を継承するため歴史的価値を評価し、保全に努めます。



●井堰そばの石碑



●大黒井堰



●唐津城と調和した河川景観



●歴史文化に根ざした川づくりイメージ



河川特性や動植物の生息・生育状況に関するモニタリングを実施します。



●良好な河川環境を保全していくため、河川水辺の国勢調査の継続的実施や地域住民と連携した水生生物調査など、モニタリングを継続的に実施します。



●河口部の自然観察調査

良好な水質の保全に努めます。

- 河川及び厳木ダムの水質調査を定期的、継続的に実施し、動植物の生息・生育環境や水利用に対する影響等を把握します。
- 松浦川流域全体の水質等を保全し向上させるため、佐賀県及び市等と「唐津・東松浦地区等環境保全対策協議会」を構成しており、水質改善に向けた啓発活動及び水質事故発生時の対応等について、関係機関との連携を強化していきます。
- 地域住民等と情報交換を行い、連携を深め松浦川の更なる水質向上に努めます。



●水質事故

適正な河川利用の促進に努めます。

- 河川空間の適正な利用にあたっては、治水、利水および動植物の生息・生育環境、河川景観との調和を図り、松浦川の魅力を向上させるよう、河川や地域の特性に応じた河川利用の促進に努めます。
- 船舶の不法係留や河川敷地の不法占用、不法投棄などに関して、河川巡視等による未然防止を図り、関係市や警察と連携し適切に対処します。



●環境保全対策協議会

ゴミの不法投棄対策を講じます。

- 河川に流入・投棄されるゴミを減らす為、地域住民及び企業等の参加による河川の美化・清掃活動を自治体と連携して支援するとともに、ゴミの実態等を定期的に公表し、美化意識の向上を図ります。
- 洪水時などにおけるゴミや流草木などの流出に関しては、自治体及び農業用排水路の管理者等との連携を深め、河川への流出量の削減に努めます。
- 「アドプト・プログラム制度」などの全国の事例を参考に、地域活動・地域コミュニティによる河川美化等を促進していきます。



●地域住民による清掃活動



●ゴミマップ

「憩いの場として愛される松浦川を地域住民とともに」との認識に立った住民との協働による河川管理を推進します。

- 松浦川流域における歴史的・文化的施設や良好な風景等を後世に残すため、関係行政機関、佐賀県及び関係市との情報の共有化、各種施策の共同実施など連携を強化した事業展開を図ります。
- 地域間の交流・利活用を促進することで人と川のつながりの再構築を図ることを目標に松浦川における広域的な活動拠点のネットワークを形成します。

海も含めた流域拠点のネットワーク化 (川と海のコラボレーション)



●出前講座での魚の観察会

- 河川に関する情報を関係機関や地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育などの充実を図るとともに、住民参加による河川清掃の推進等、河川愛護の啓発活動等に取り組みます。

地域の将来を担う人材の育成・発掘に取り組みます。

- 川づくりを進める上で、川遊びや水生生物調査、イベント、環境学習など水辺の自然体験活動等の機会を提供し、将来を担う子供たちへの環境学習を積極的に支援します。
- 自然体験活動の指導者育成・発掘に取り組むとともに、これまで度重なる水害や渇水を経験した地域住民がもっている知識や知恵等を伝承していく「語り部の達人(仮称)」といった人材の育成にも取り組みます。



●リバーズスクールの様子



関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進します。

- ホームページ、広報誌やラジオ、テレビ、新聞等を利用して、広く情報提供を行い、情報の共有化、意見交換の場づくりを図り、「松浦川らしさ」を活かした河川整備を進めていきます。



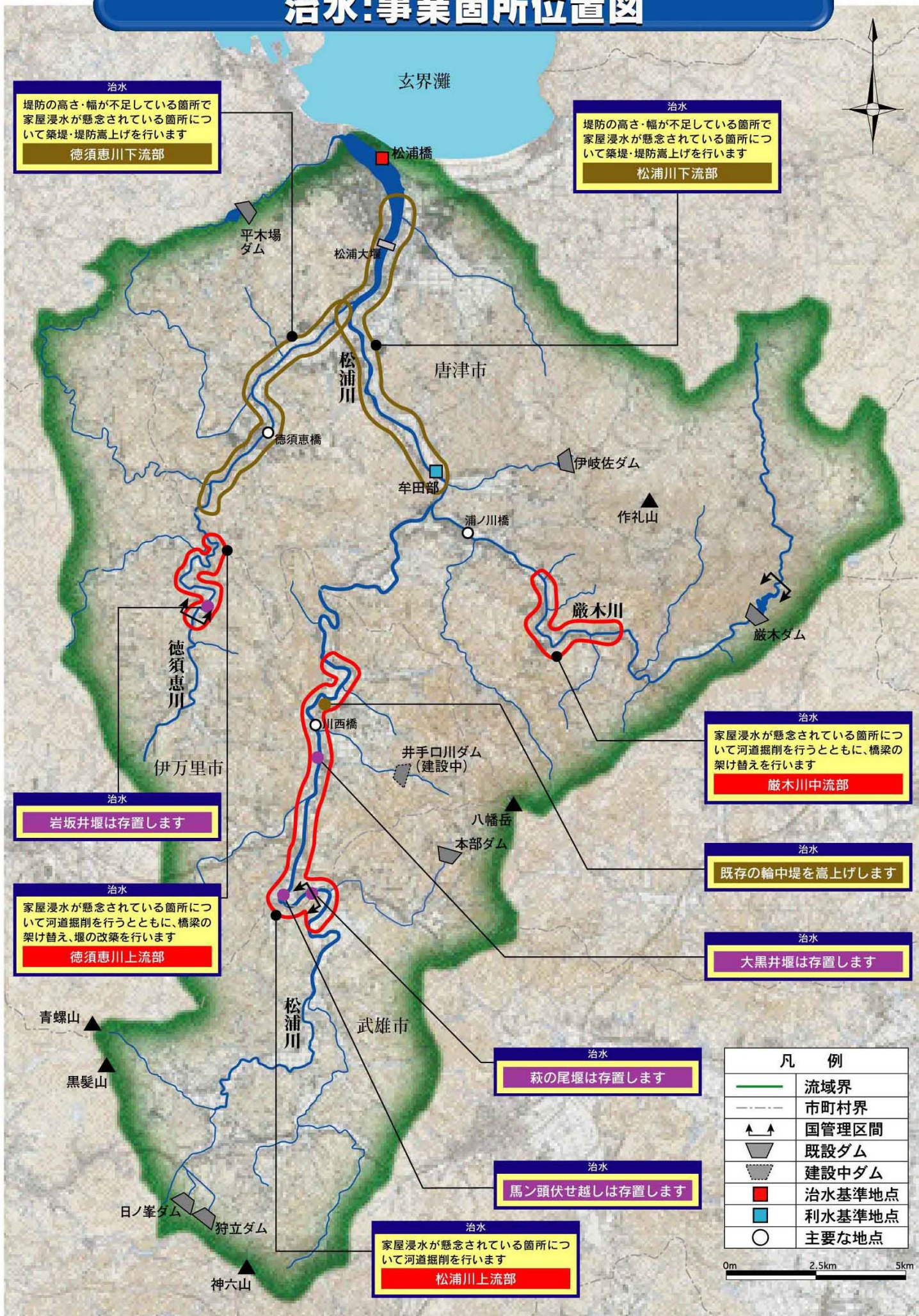
●アザメの瀬検討会の様子



●武雄河川事務所HP

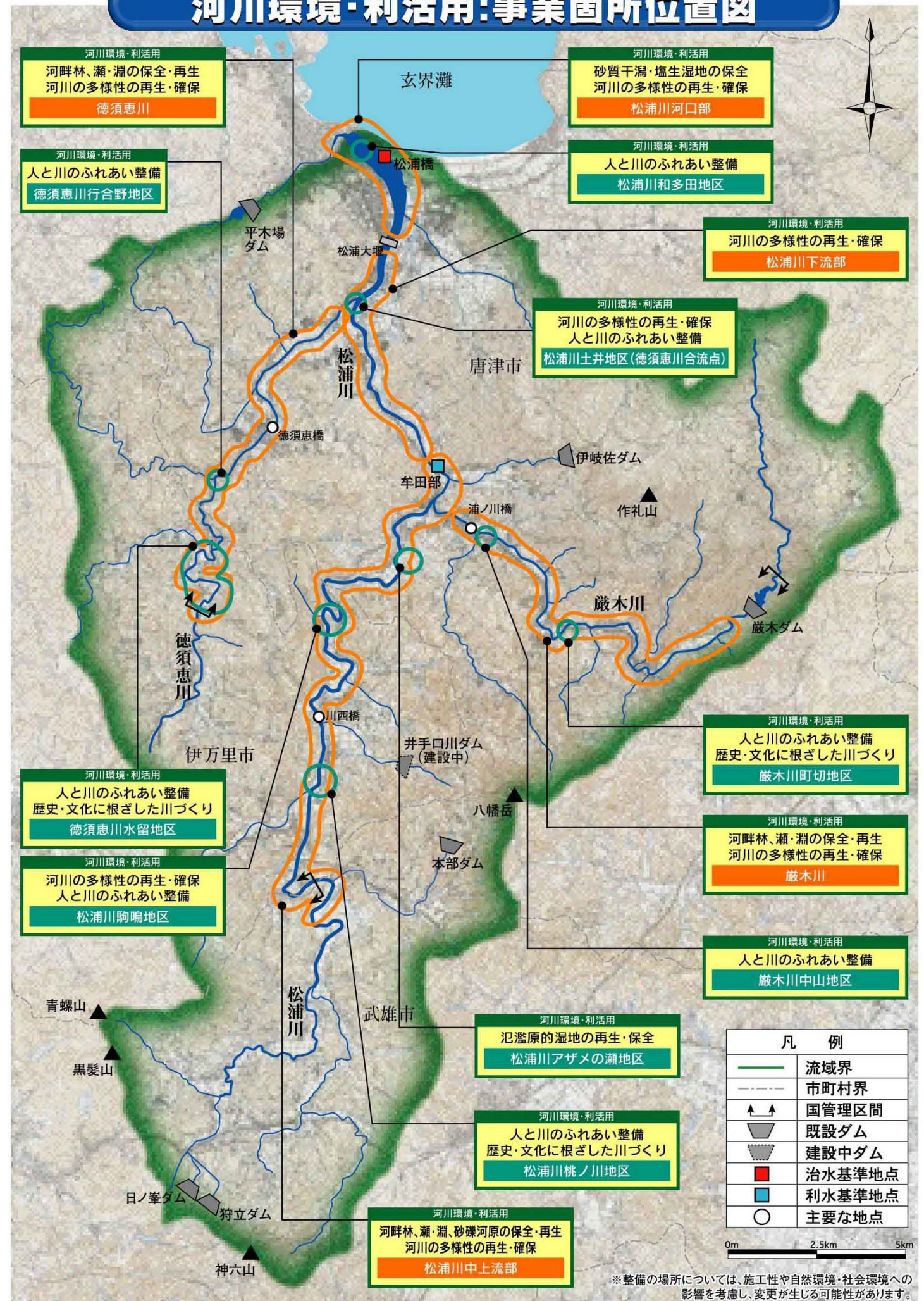
●武雄ホットニュース

治水:事業箇所位置図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平18九複、第302号)

河川環境・利活用:事業箇所位置図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平18九複、第302号)